

土田 宣明

立命館大学文学部 教授

認知機能の可塑性に関する研究－認知リハビリテーションからの分析－

本研究は、認知リハビリテーションを実施することで、認知機能に改善・変化がみられるかを検討したものである。この検討を通じて、認知機能の可塑性について考察することを目的とした。高齢者を対象として、3年間の計算・音読課題を遂行し、認知機能および前頭前野機能に与える影響を調べた。具体的には FAB 課題と MMSE 課題を用いて分析した。なお、統制群として、査定課題のみを継続的に実施する群を設定して比較した。結果として、3つの点が明らかになった。1) 学習群の前頭前野機能の改善が確認された。2) 学習群の認知機能の維持が確認された。3) 統制群の前頭前野の低下が確認された。これらの結果から、高齢者においても認知機能は変化しうること(可塑性があること)が推察された。今後の高齢者化社会を迎えるにあたり、認知リハビリテーションの重要性が確認されたといえる。